

河南町ひとづくりビジョン

(人口ビジョン)

平成28年3月

河南町

目 次

第1章 はじめに	1
1. 背景	1
2. 人口ビジョン	1
第2章 河南町の人口の現状	2
1. 人口	2
2. 自然動態	4
3. 社会動態	6
第3章 社会保障・人口問題研究所による人口推計	9
第4章 将来展望	11
1. 人口減少・人口構造変化が地域の将来に与える影響の考察 ..	11
2. 目指すべき将来の方向	12

第1章 はじめに

1. 背景

- 日本は「人口減少時代」に突入しています。
- 国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」では、「人口減少がそのまま続けば、人口は急速に減少し、その結果、将来的には経済規模の縮小や生活水準の低下を招き、究極的には国としての持続性すら危うくなるのである。」と警鐘を鳴らしています。
- 河南町の人口は、平成17(2005)年国勢調査の17,545人をピークに、平成22(2010)年の国勢調査で減少に転じました。

2. 人口ビジョン

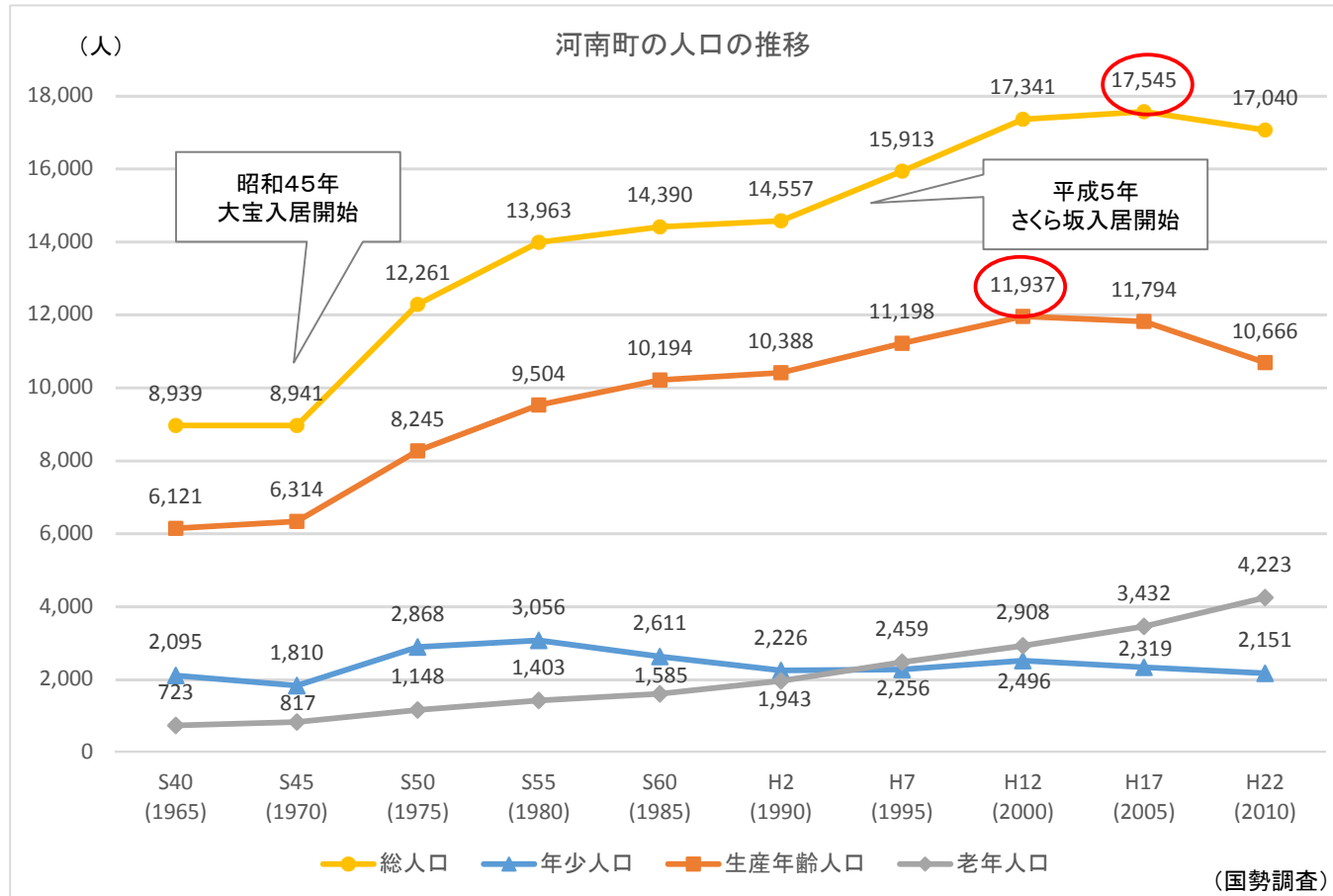
- 国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を踏まえ、河南町の人口を分析し、人口減少問題に関する住民の認識の共有、平成72(2060)年までの将来の方向と人口の展望を示すものです。

第2章 河南町の人口の現状

1. 人口

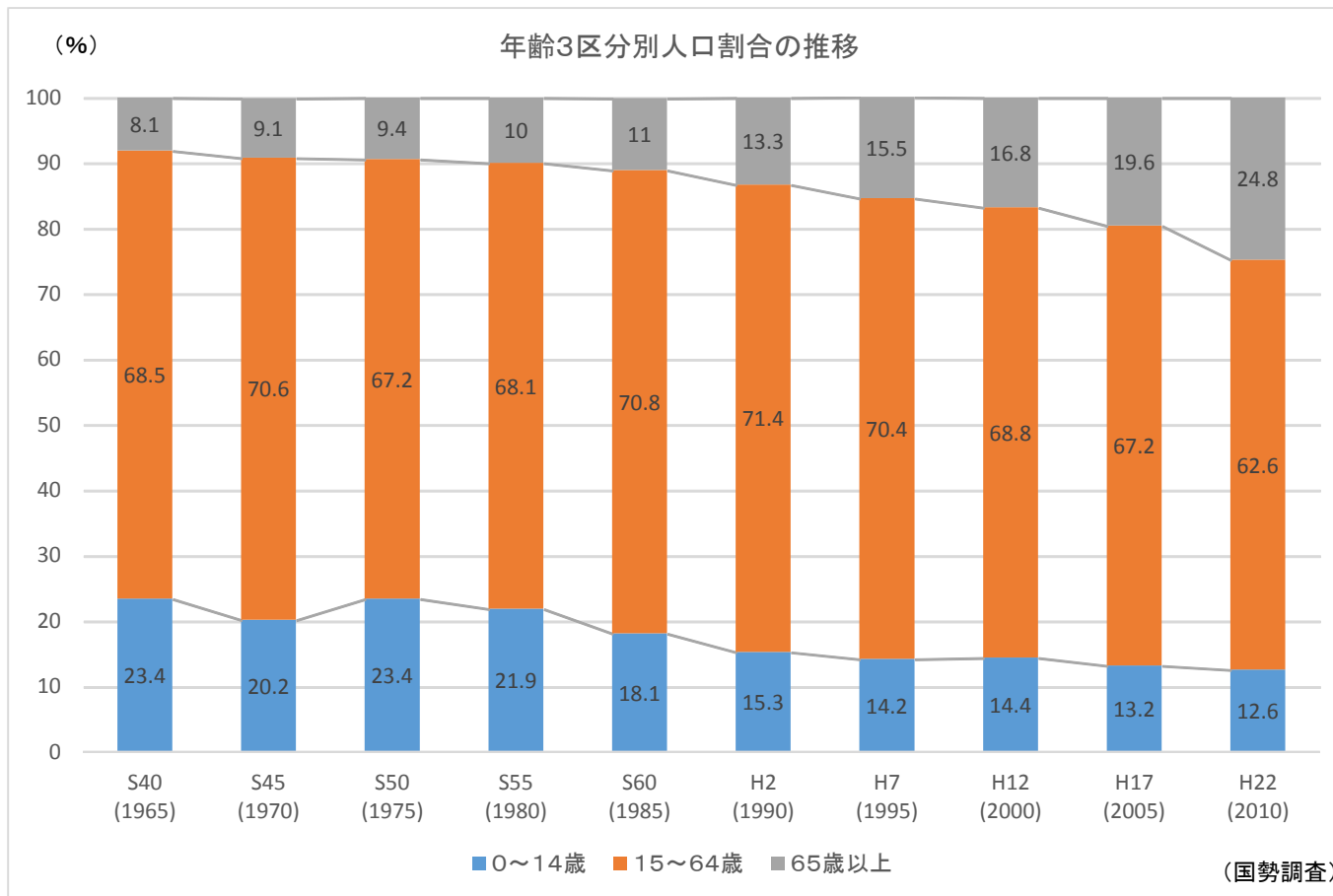
【人口の推移】

- ・昭和31(1956)年の町制施行後、9,000人程度の人口で推移。大規模住宅団地開発に伴い、人口がほぼ2倍。
- ・総人口のピーク時の平成17(2010)年、年少(0~14歳)・生産年齢人口(15~64歳)ともに減少しているが、老年人口(65歳以上)は増加。



【年齢3区分別人口割合の推移】

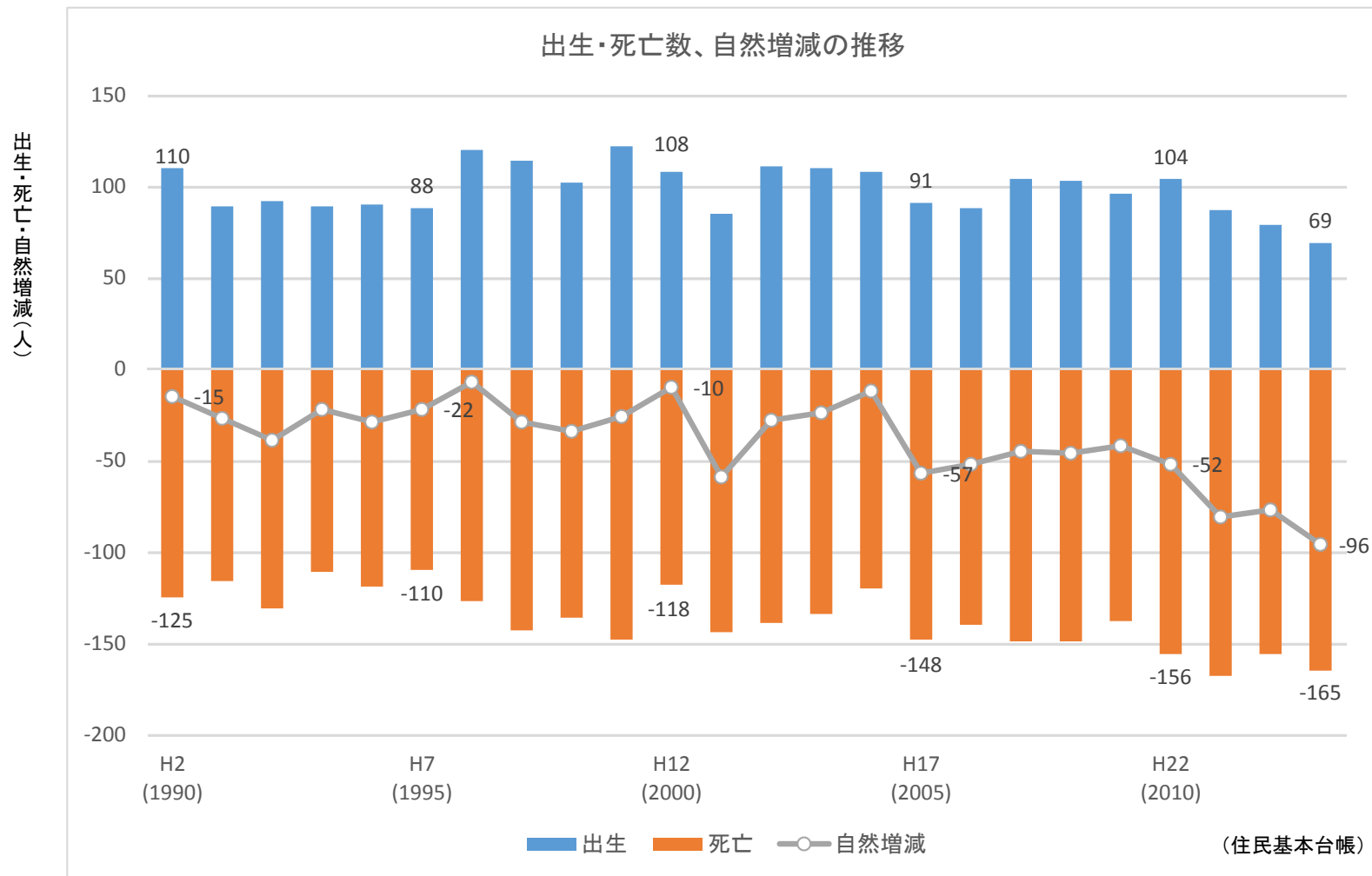
- ・総人口に占める老年人口の割合は、平成22(2010)年は24.8パーセント。総人口に占める年少人口の割合も12.7パーセントに低下。



2. 自然動態

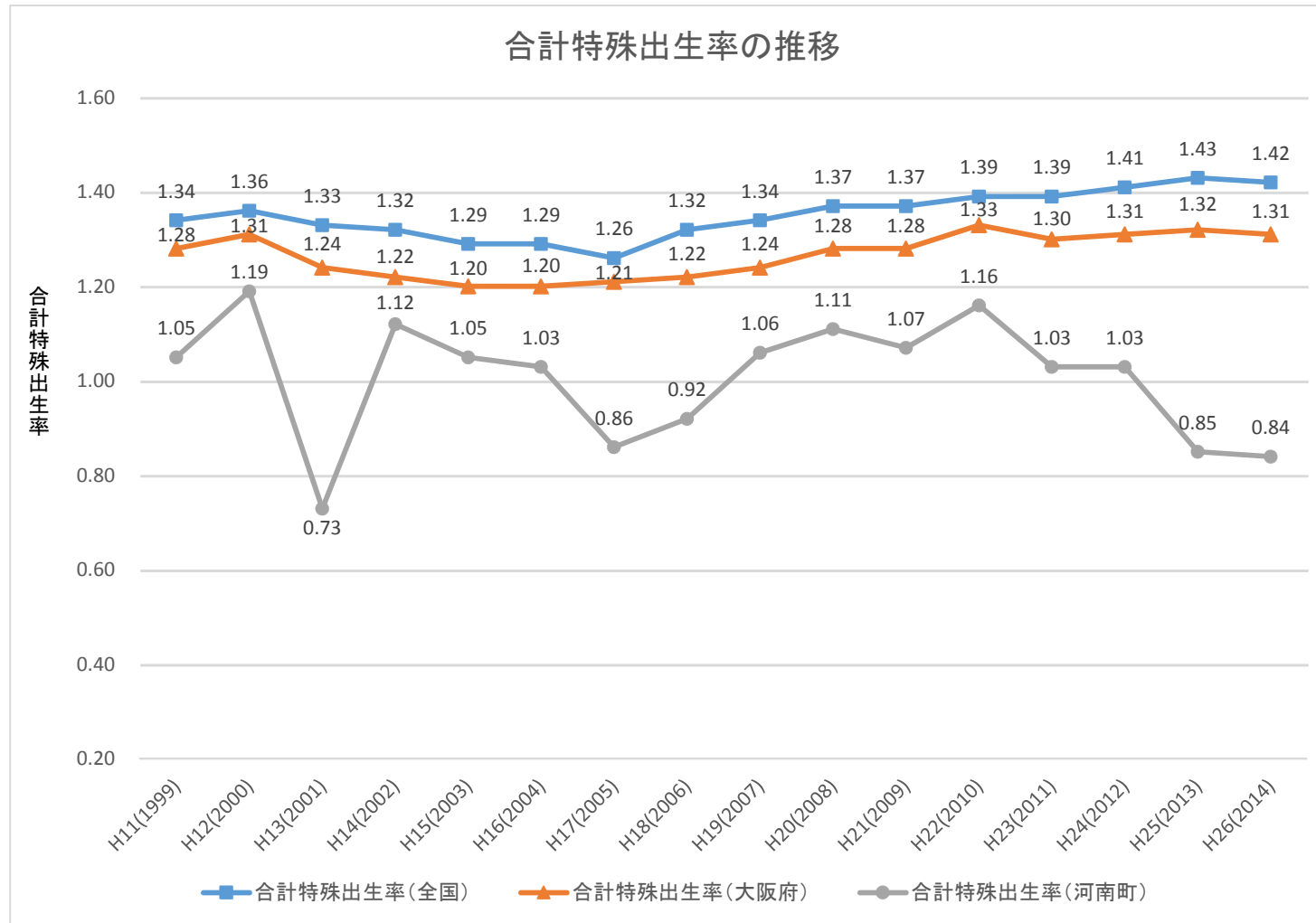
【出生・死亡数、自然増減の推移】

- ・死亡数が出生数を上回っている。
- ・全体として出生数は減少傾向、死亡数は増加傾向にある。
- ・出生数は100人前後で推移していたが、平成23(2011)年以降減少傾向。



【合計特殊出生率の推移】

- ・河南町の合計特殊出生率、平成24(2012)年までは、概ね1～1.2の間で推移していたが、平成25(2013)年から下降傾向。
- ・国・大阪府より低い傾向が続いている。

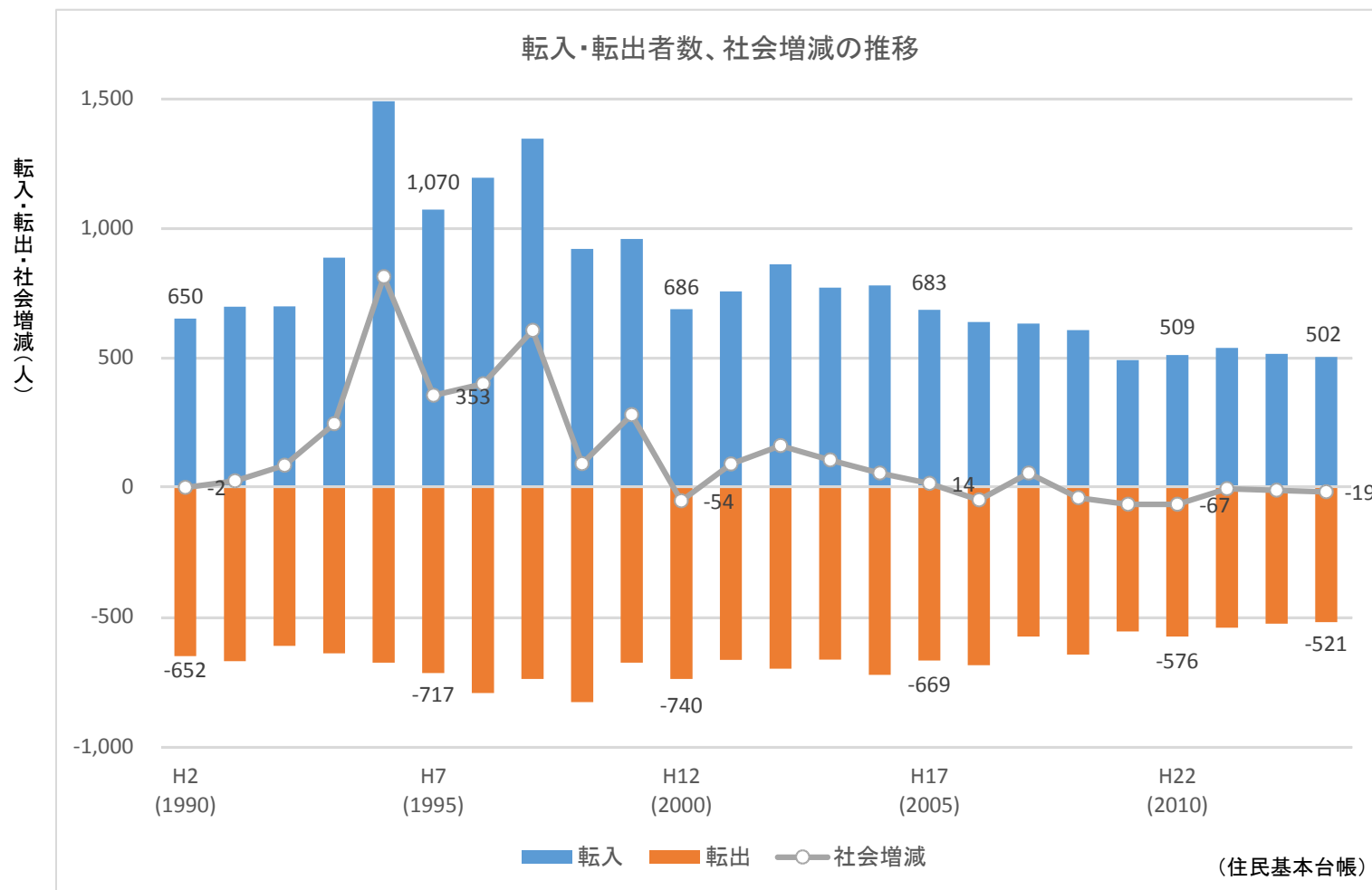


(厚生労働省人口動態調査・住民基本台帳)

3. 社会動態

【転入・転出者数、社会増減の推移】

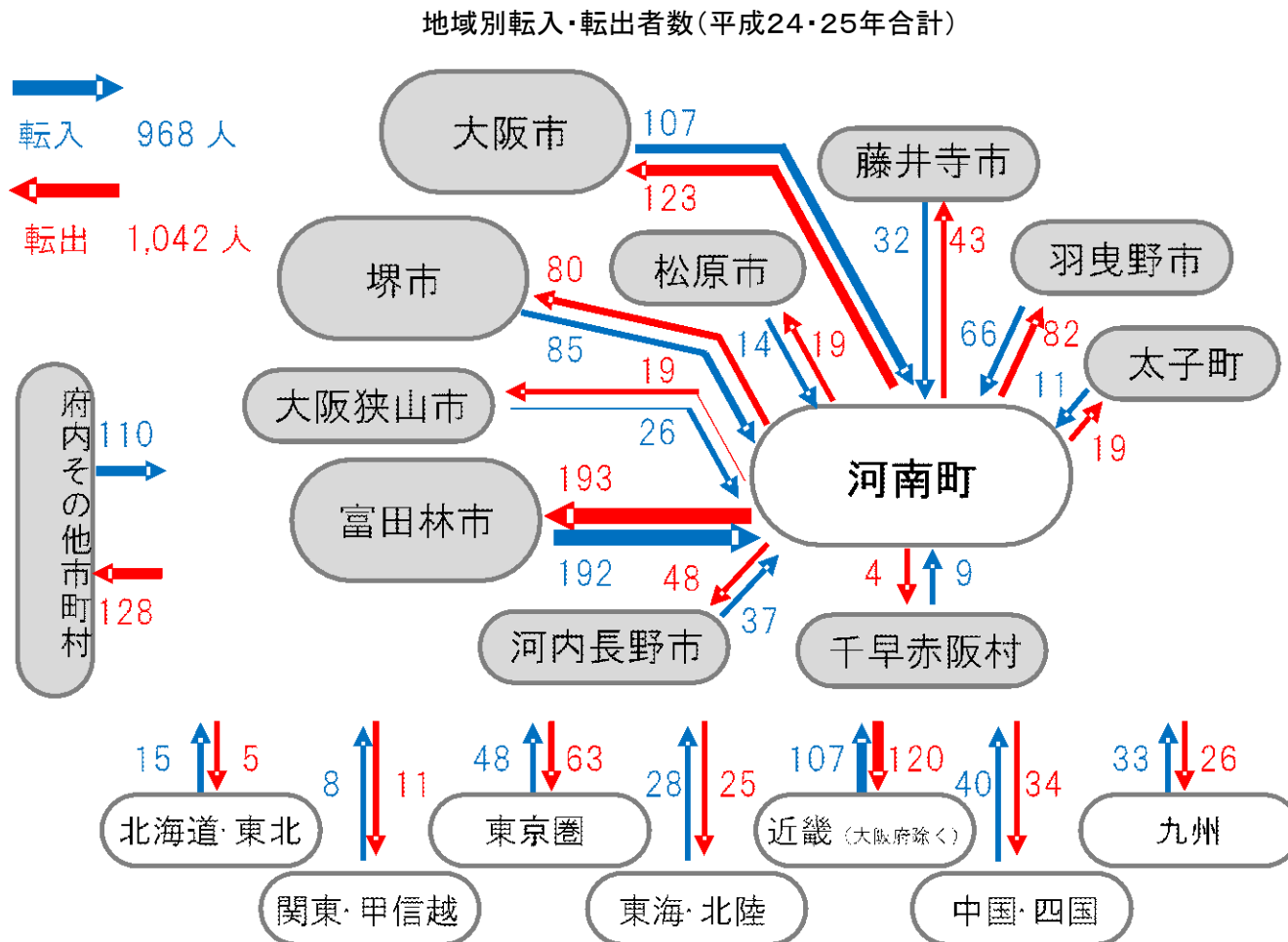
- ・平成20(2008)年以降社会減に転じている。
- ・転入数・転出数ともに収束していく傾向にある。社会減の数字も少なくなっている。



【地域別 転入・転出者数】（平成24・25年合計）

・社会移動は、大阪府内、特に南河内地域での移動が多い。府域外では、近畿、次いで東京圏。

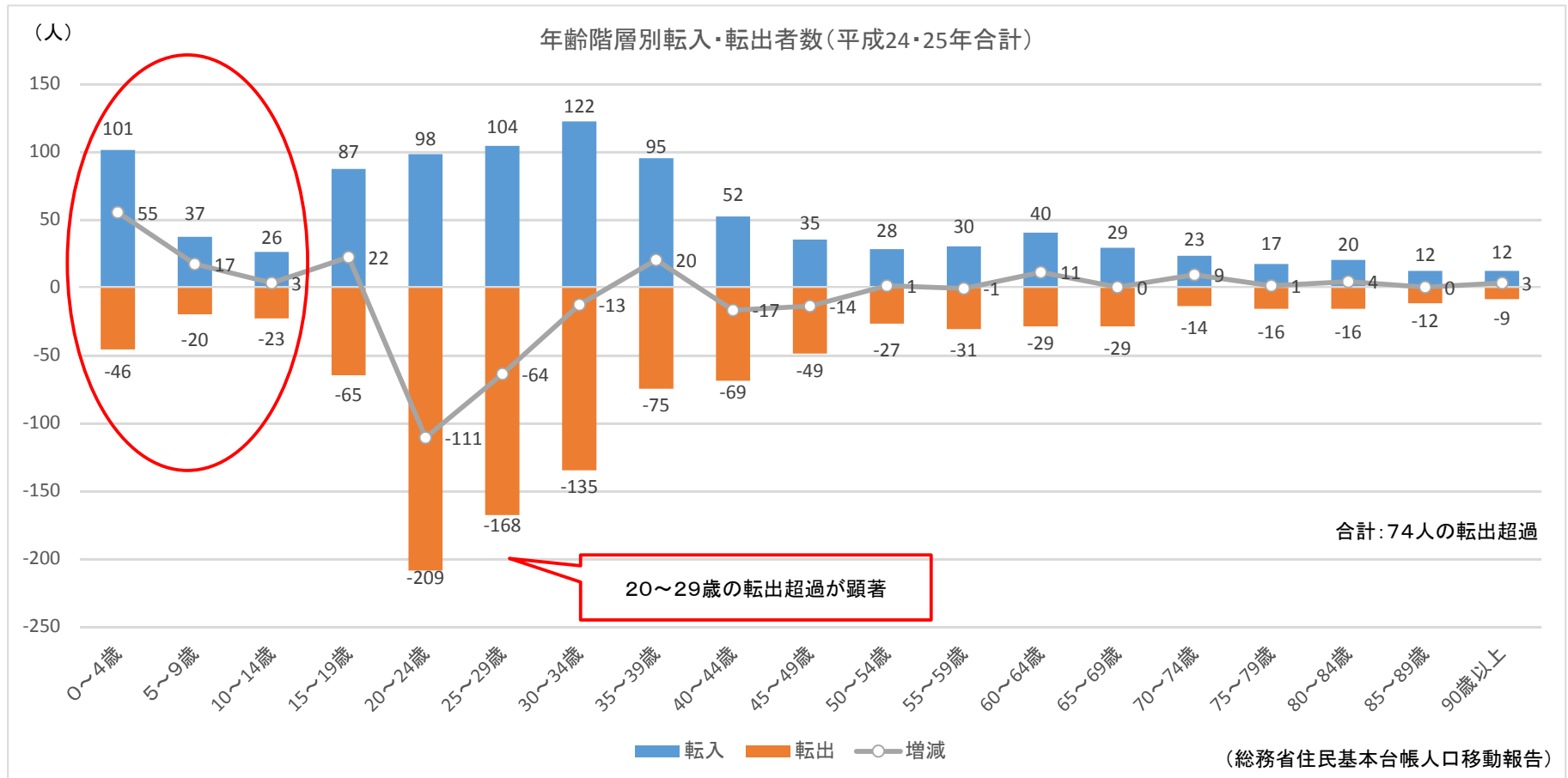
・府内で移動が多いのは富田林市、大阪市、羽曳野市、堺市。転出超過が多いのは羽曳野市(-16)、大阪市(-16)、藤井寺市(-11)、河内長野市(-11)。



(総務省住民基本台帳人口移動報告)

【年齢階層別転入・転出者数】(平成24・25年合計)

- ・20～29歳の転出数が多い。
- ・0～14歳は転入超過。家族(親と子ども)での転入と考えられる。
- ・50歳以降は移動が少なくなる。

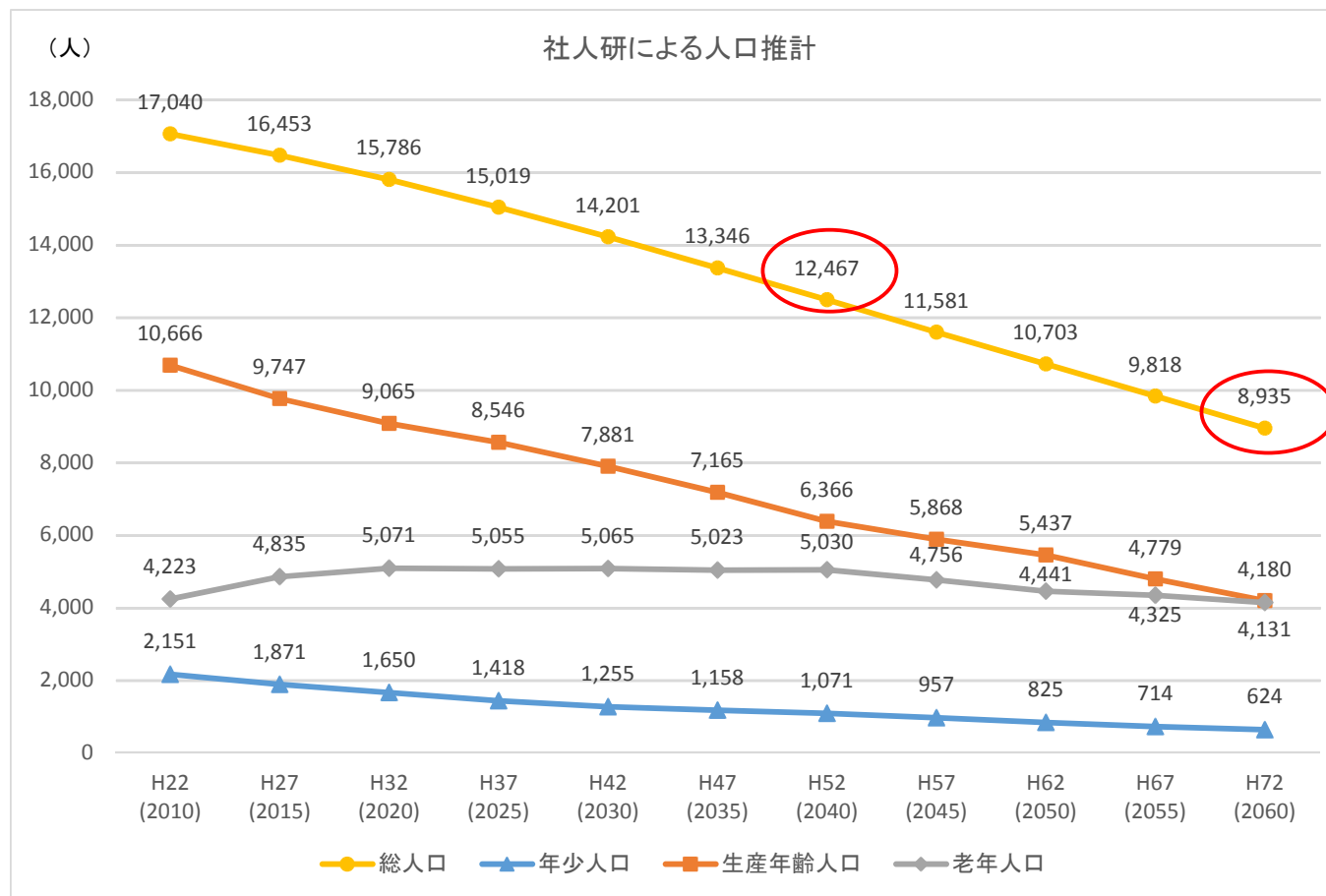


第3章 社会保障・人口問題研究所による人口推計

【推計：総人口】

・国立社会保障・人口問題研究所(社人研)による人口推計では、平成52(2040)年には12,500人程度、平成72(2060)年には8,900人程度になる。

・平成22(2010)年を基準とすると、平成52年には27%減、平成72年には48%減。



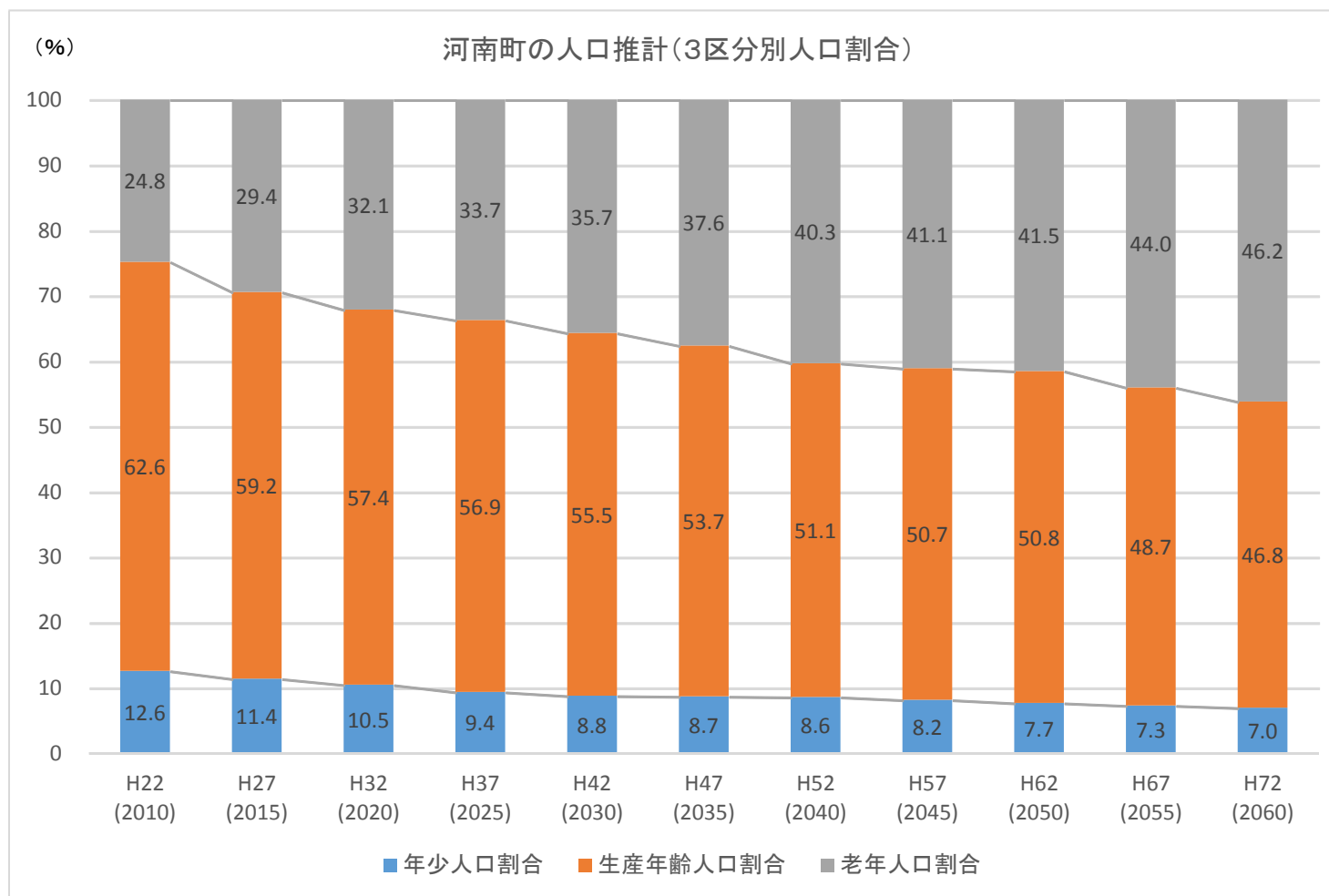
○社人研推計の算定条件

- ・主に平成17(2005)年から平成22(2010)年の人口の動向を勘案し将来の人口を推計。
- <出生に関する仮定>
 - ・平成22年の全国の子ども女性比(15~49歳女性人口に対する0~4歳人口の比)と各市町村の子ども女性人の比をとり、その比が平成27(2015)年~平成72(2060)年まで一定と仮定。
- <死亡に関する仮定>
 - ・原則として、55~59歳→60~64歳以下では全国と都道府県の平成17年→22年の比から算出される生残率を適用。
 - ・60~64歳→65~69歳以上では、上記に加えて都道府県と市町村の平成12年~17年の生残率の比から算出される生残率を適用。
- <移動に関する仮定>
 - ・原則として、平成17~22年の国勢調査(実績)に基づいて算出された純移動率が平成27年から平成32(2020)までに定率で0.5倍に縮小し、その後はその値を一定と仮定。

【推計：年齢3区分別人口割合】

・平成22(2010)年以降、年少人口・生産年齢人口は減少。老年人口は、平成32(2020)年までは増加するが、以後横ばいとなり、平成52(2040)年以降減少に転じると推計。

・平成52(2040)年には老年人口と生産年齢人口の比率は1:1.3、平成72(2060)年には1:1になる。



第4章 将来展望

1. 人口減少・人口構造変化が地域の将来に与える影響の考察

【生活へ与える影響】

- * 空き家、耕作放棄地の増加により、治安面の不安増大や地域魅力の総合的低下
- * 少子化に伴う学校規模縮小。高齢化に伴う地域活動の担い手減少。一人暮らし高齢者や孤独死の増加
- * 路線バス等の地域公共交通の縮小により交通利便性が低下。
- * 医療介護関連サービス等の生活基盤サービスが縮小

【地域経済へ与える影響】

- * 生産年齢人口の減少に伴う活力低下、技術伝承が懸念
- * 人口減少による消費支出の減少や、人口構造変化に伴う消費スタイルや支出品目の変化
- * 店舗や売上の減少による地域経済の停滞。購買の選択性が縮小し、利便性の高い場所への人口流出も懸念
- * 人口の減少や空き家の増加による不動産活用の低下

【財政へ与える影響】

- * 住民税や固定資産税等の歳入減少と1人当りの負担増大が懸念
- * 老年人口の増加に伴う医療費・社会保障費の増大
- * 生活に必要なサービス維持、防犯、治安維持等の歳出増加
- * 公共施設の再編整備

2. 目指すべき将来の方向

<人口の将来展望>

平成72(2060)年に 17,000人

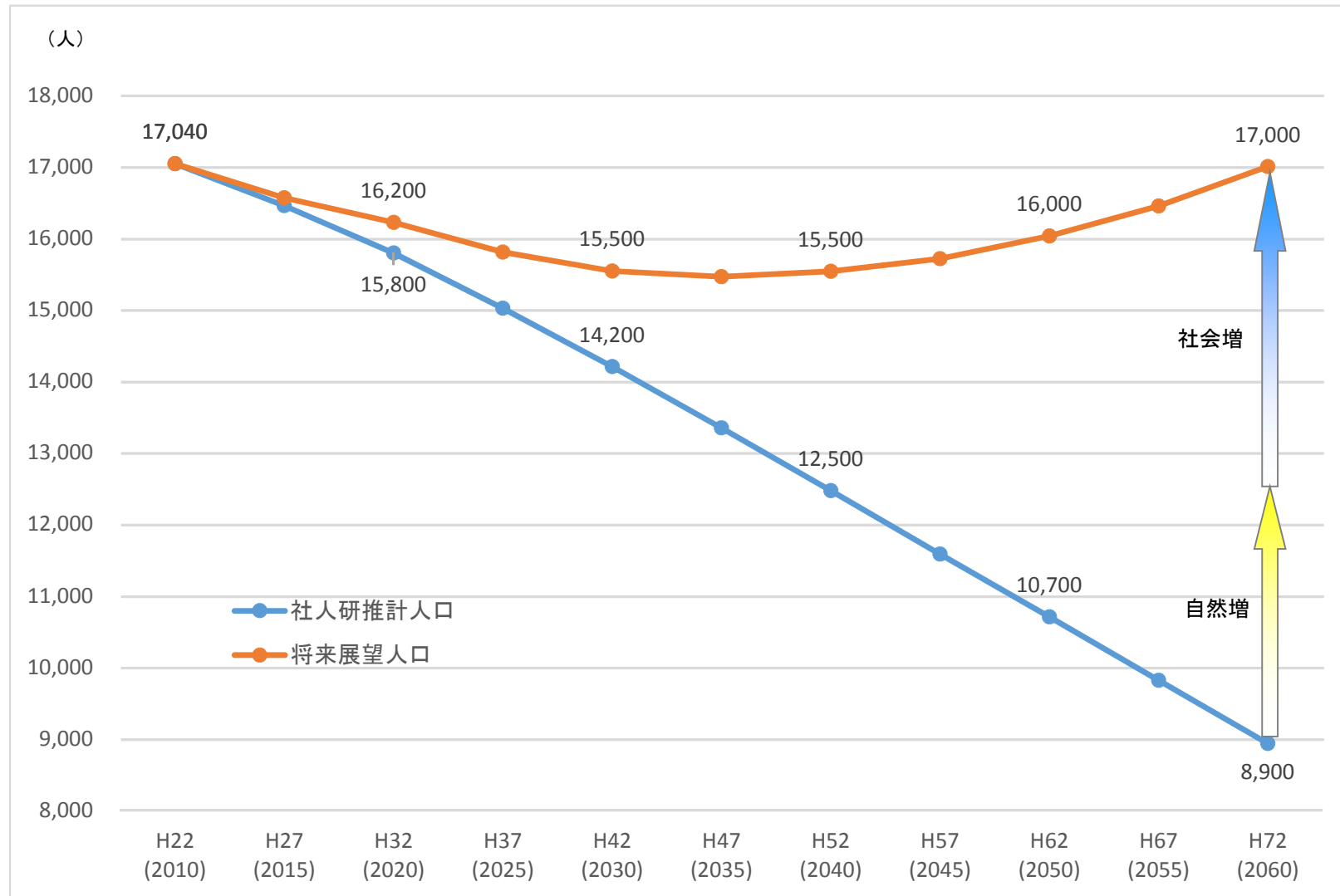
【合計特殊出生率】

○平成42(2030)年に1.8、平成52(2040)年に2.07に向上

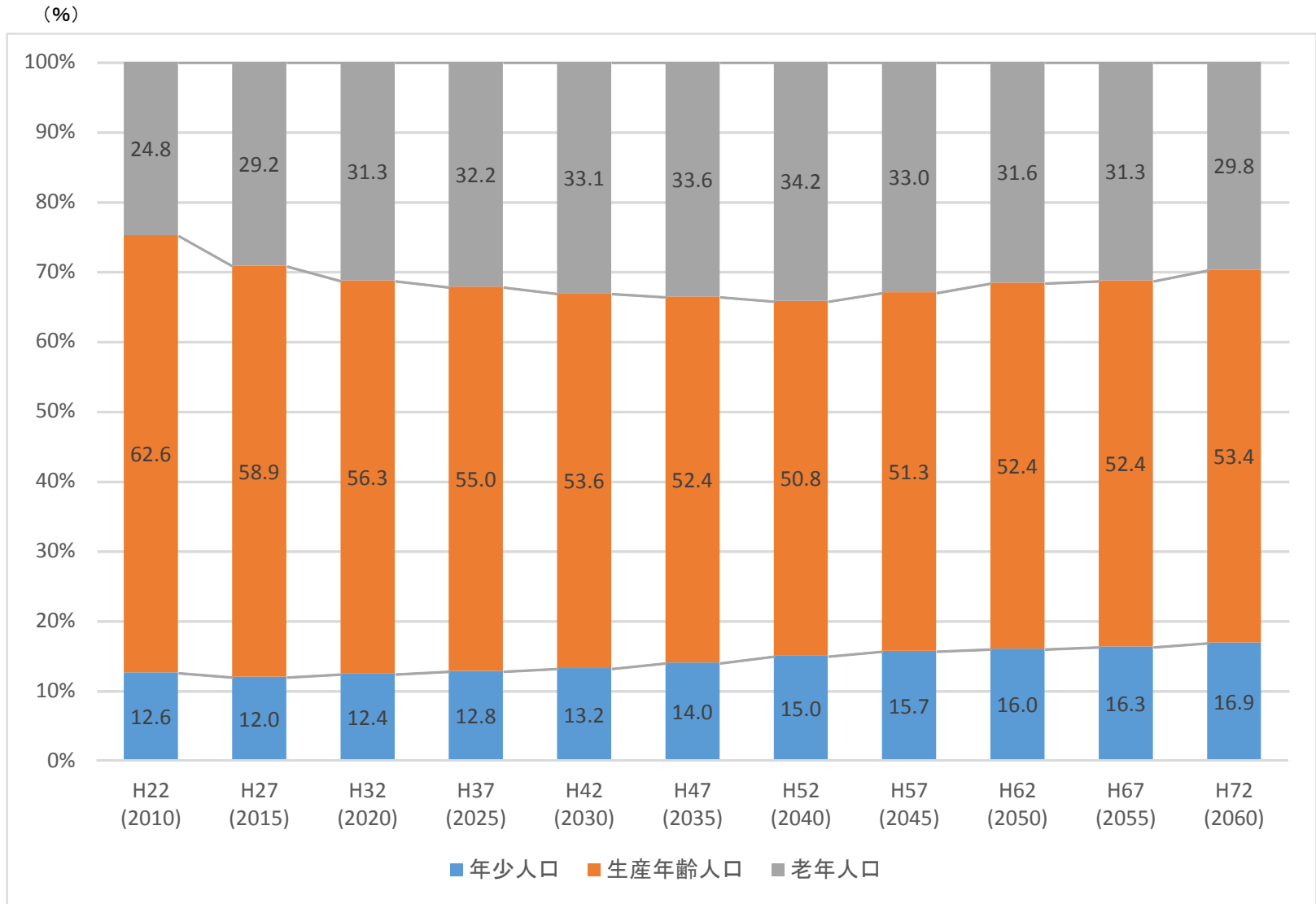
【人口の定着】

○社会増を平成37(2025)年に35人程度、その後徐々に増やし、平成52年(2040)年に120人程度、平成72(2060)年には180人程度に増やす。

【河南町将来展望人口:総人口の推移】



【河南町将来展望人口：3区分別人口割合の推移】



<取組の方向性>

住みたいまち、住み続けたいまちを目指して

- ◇子育て・教育等の総合的な支援の充実により、若い世代が魅力を感じる河南町をつくり、出生数の増加を目指す。
- ◇すべての人の生活の場を整え、人口の流出を抑制する。
- ◇暮らしやすさ、環境、仕事等の地域魅力を発信し、活発な地域間・世代間交流やI・J・Uターンを促す。

河南町ひとづくりビジョン（人口ビジョン）
平成28年3月

編集・発行 河南町総合政策部

〒585-8585

大阪府南河内郡河南町大字白木1359番地の6

電話：0721-93-2500（代表）

FAX：0721-93-4691